

蒲郡市男女共同参画情報紙

# はばたき

特集●「仕事と家庭の両立に

ついでのアナキート」調査



「参画で わたしが変わる 未来も変わる」  
(平成15年度 男女共同参画週間標語)

蒲郡市

第5号  
2004.3

# 仕事と家庭の両立

市内の働く男女に「仕事と家庭の両立についてのアンケート」調査を実施しました。調査は平成15年11月下旬から12月初旬に、男女123名(男27名、女96名)を対象に行いました。

## 問 自分の職業についてどう思っていますか？(複数回答)



回 答	
	a. 生きがいを感じている
	b. やりがいがある
	c. 仕方なく続けている
	d. 辞めようと思ったことがある
	e. その他

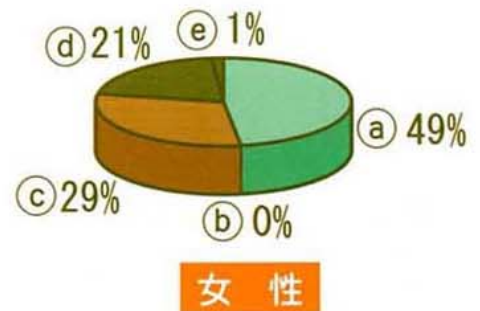


- 男女ともに5割の人が仕事に対して、生きがいややりがいを感じている。しかし、一方で、4割から5割の人が、仕方なく続けている、あるいは辞めようと思ったことがあるという回答だった。
- 辞めたいと思ったことがあるという男性は健康上の理由や職場の人間関係をあげた人がいた。女性では、父母の看病や、周囲から母親が働いては子どもがかわいそうと言われた、育児休暇明けに保育園にすぐ入れなかったからなどという理由があげられた。

## 問 子どもが乳幼児のときや小学校低学年のとき、育児をしたのは主に誰ですか？



回 答	
	a. 自分
	b. 配偶者
	c. 祖父母
	d. 保育園・託児所・幼稚園
	e. その他



- 男性は配偶者という回答が目立った。また、男女ともに祖父母という回答も多かった。
- 育児について「家族の協力があつたかどうか」という問いに対しても、男女ともに「祖父母の協力」が一番多かった。

## 問 子どもを保育園等に預けることについて苦労したことはありますか？

- ・入所待ちが多い
- ・希望の保育園に入所できない
- ・3歳未満を預かってくれるところが少ない



## 問 これからの子育て支援や保育園のあり方はどのようになるといいと思いますか？

- ・親の子育て不安が少しでも軽くなるように、精神的な支援を含めた保育
- ・延長保育・学校の長期休暇の際の保育
- ・病児保育の実施
- ・ゼロ歳児保育の実施
- ・希望者全員が保育園に入れるようになること

# アンケート

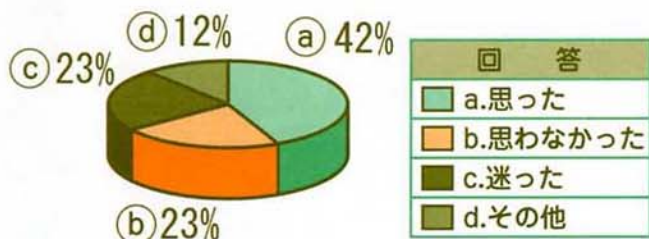


ました。結果は次のとおりとなりました。

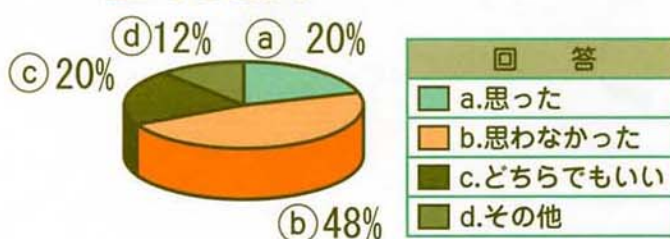
## 問 仕事と家庭の両立で悩んでいることはありますか？

- 男性の70%近くが特に悩みはないと答え、女性の半数は悩みありと回答している。
- 悩みの主なものは
  - ・子どもと接する時間がない
  - ・子どもと休みが合わない
  - ・仕事で疲れて家事が十分にできない

## 問 子どもさんのいる女性へ 出産後、仕事を続けたいと思いましたか？



## 問 子どもさんのいる男性へ 出産後、妻に仕事をやめてもらいたいと思いましたか？



## 問 仕事と家庭を両立させるにはどうしたらよいと思いますか？

- ・家事・育児を夫妻で協力するのが当然の世の中になるといい
- ・民間で時間に関係なく使用できる機関や施設があるとよい
- ・家庭の時間を大切にしたい。仕事以外では子育てに専念したいが、なかなか時間がとれず、現状としては厳しい
- ・安心して子どもを生き育てられるような社会支援が必要

## 問 少子化、子育て不安の時代といわれますが、それを解消するにはどうしたらよいと思いますか？

- ・育児が孤立しないように地域で協力することを考えなければいけない
- ・核家族化が一因ともいわれるが、各家庭の事情もある。各家族形態にあった社会的支援があればよいと思う
- ・男性も子育てをする努力が必要
- ・病院・保健施設も育児支援をする

編集委員  
より

今回の調査で、子育てに関する質問について、男性は「自分にはあまり関係ない」というニュアンスが多少感じられました。子育ては母親だけではできないという点を理解いただきたいものです。また、仕事と家庭との両立で一番悩むのは、子育てにおける子どもさんとの関わりや家族の看護等が問題となっているようです。そして、子育ての一番の協力者は祖父母で、逆に祖父母の協力が得られる人は働きに出る環境が整っていると思われました。

安心して働くためには、保育園等の育児支援のさらなる充実が求められます。また家族全員の協力はもちろん、地域や企業みんなで協力し合う必要があると思われまます。

# 「ジェンダーの垣根を乗り越えて」Part-2

蒲郡市消防署 <sup>さかこし</sup>坂越 <sup>ひとみ</sup>仁美さん

火事や事故、急病などで消防車や救急車を呼んだ時に、助けに来てくれる消防士や救急救命士は男性ばかりではありません。蒲郡市で初の女性消防士としてガンバっている方をご紹介します。



テレビで、ある女性救命士が「自分が行くことによって、現場の人々の顔に安心感が見られた時にやりがいを感じる」というのを聞き、その時、私も人に安心感を与えられるような仕事に就きたいと強く感じました。今の消防署は、施設面ではこれまで一人も女性がいなかったということでもまだ不完全ですが、人間関係はとても良く、楽しく働いています。自分にできる仕事はまだ少ないですが、これから知識と経験を積んでいき、皆さんのお役に立てるようになりたいです。希望する職業に就くことはなかなか難しいと思いますが、自分なりにやりがいを見つけ、仕事を楽しむことが大切だと思います。

## 蒲郡市消防署予防課 課長補佐 尾崎 英行さん談

私自身、男女を問わずお互いに責任を分かちあうことが不可欠と思っています。坂越さんには夜間の火災原因調査の当番も割り当てており、仕事はきついと思いますが頑張っています。男性ばかりの職場の中でも、まったく違和感はなく、女性ならではのパワーや明るさに圧倒され、職場に活性化をもたらしています。仕事に取り組む心意気は決して男性にひけをとりません。大いに期待しています。

はばたき 第5号  
2004.3

ご意見・ご感想をお寄せください。

発行／蒲郡市 企画調整課

編集／「はばたき」編集委員

〒443-8601 蒲郡市旭町17-1

■TEL 0533-66-1162 ■FAX 0533-66-1190

■Eメール kikaku@city.gamagori.lg.jp

100%再生紙を  
使用しています。

今回のアンケートにお答えくださった方は専門職の方が多く、女性が出産後も仕事を続けていくには何らかの資格があるのも大事だと思いました。また仕事と家庭の両立をするためには、協力してくれる人がいることが大切だと痛感しました。アンケートへのご協力ありがとうございました。

編集後記